



# 井上道義の 未来だった今より

日本のオーケストラとしては異例の「例年のヨーロッパ演奏旅行」をしているオーケストラ・アンサンブル金沢（OEK）。今年は、7月22日から8月3日まで、韓国公演に続き、ドイツ&デンマークの音楽祭、フランスの音楽祭に続いて招かれ、全7回、いずれも大成功を収めました。

特にフランスでの演奏は感動的でした。南仏マルセイユ近くの広大な庭園で30年続いている野外でのピアノ中心の音楽祭。協演者の一人アルド・チッコリーニはなんと86歳！彼はベートーベンとシューマンのコンチェルトを続けざまに弾き、アンコール2曲を感動的に加え、コンサートが終わってから、皆で食事をしたが、夜中の2時になってもまったくネを上げない。今はオジイサンになった愛人がいまでも隣にいるからなんだろうか？

南仏の夏は乾いていて、雨も降らず

蚊もいない。暗くなり始める夜9時開演、9時半まで鳴き続けたセミたちも、チッコリーニが2楽章を静かに奏で始めたとなん、一斉に黙ったのにはびっくり。2千人以上の観客もパカンスの夜を満喫、OEKの緊張感とエネルギーに満ちた演奏に心からの拍手が止まらなかった。

このときのフランステレビ局の収録映像、ぜひ日本でも放映してほしい。彼らの感性によるカメラワークがとらえた空気、そして演奏者や観客の表情を見てほしいから。

OEKの楽員、事務局、ファン、支える企業、行政マンたちが金沢で培ってきた息の長い努力が、あの声を潜めた虫たちの「気」と共に夜の星へ昇天したようだった。忘れられない「金沢からの旅」の瞬間でした。

（オーケストラ・アンサンブル金沢）  
音楽監督

♪  
金沢からの旅